

majotae

9 4 9 0

Milan Design Week 2024 Report

大麻布ブランド<majotae>^{マヨタエ}がスリープコレクション<majotae 9490>を発表
DREAMSCAPEのタイトルのもとミラノデザインウィークにて
エキシビションを開催

デザイン：Teruhiro Yanagihara Studio



Photo : Guglielmo G C Profeti

2024年4月のミラノデザインウィークにおいて、大麻布ブランド<majotae>は、柳原照弘率いる Teruhiro Yanagihara Studioがプロダクトデザインを手がける初のフラッグシップライン<majotae 9490>を発表しました。今回発表した<majotae 9490>は、デュベカバー、フラットシーツ、ピローケースで構成されるスリープコレクションで、2024年6月より、世界的に、オンラインストアのグローバル展開をスタートします。

ミラノデザインウィークでの展示は二部構成で実施しました。コンテンポラリーなギャラリー Secci Milanoでは、<majotae 9490>の素材の柔らかさを感じてもらうために実際に触れられるインスタレーションを行うと共に、新作、そして、<majotae>が蓄積してきた大麻布のアーカイブを展示しました。18世紀に建てられた美しい建物のBertaでは、時空を超えて、数百年前の機屋をコンセプトに、majotaeの世界観を味わっていただく幻想的なインスタレーションを、パフォーマーと実際の織子の実演を交えて展開しました。

ミラノでの展示について

展示会場1：Secci Milano Via Olmetto 1, 20123 Milano

コンテンポラリーな空間のSecciでは、ファブリックの柔らかさを感じてもらうために実際に触れられるインスタレーションを行うと共に、新作を展示しました。また、majotaeのルーツである、日本の大麻布に関する世界的にも貴重なアーカイブ資料の展示を行いました。



Photo : Camille Lemonnier



< majotae > の発起人であり、麻布研究の第一人者でもある吉田真一郎氏が、約40年かけて日本各地で収集した1,500点以上のアーカイブの中から、近年環境負荷が少ない天然素材としてその価値が見直されている大麻繊維と日本人との歴史的な関わりをテーマに、衣服をはじめとする大麻古布や、大麻布の制作に用いた道具や材料などを厳選し展示しました。日本における大麻布の製造プロセスと日常生活での利用の歴史をリサーチすることで、大麻繊維が持つ素材としてのサステナビリティにとどまらない、日本人のものづくりにおける様々な創意工夫や節約の心を取り入れたmajotaeの可能性を紐解きました。

< 展示資料：一部紹介 >



縄文時代の土器に付けられた編布の圧痕
紀元前15,000~300年頃

この圧痕から、古代から草木繊維を利用した編布が作られてきたことがわかる。縄文時代の遺跡からは大麻の繊維片や種子も出土しており、その頃から栽培による繊維利用が行われていたことがわかっている。日本では、大麻に加え、刺草（イラクサ）、苧麻（チョマ、日本名：カラムシ）などの草木繊維を総称して「麻」と呼び、さまざまな種類の草木が繊維として利用されてきた。



オクソザックリ
明治時代、1868~1912年頃

大麻布をつくる際に出るオクソ（大麻の苧の粗皮を削り取った際に繊維質部分）を使って織り上げた衣服。本来は捨てるオクソを繕糸として再利用したりリサイクル製品。majotaeでは、当時の大麻布づくりの過程を徹底的にリサーチすることで、布の製造過程で発生する落綿を再利用したテキスタイルの開発を行なっている。



新聞紙に包まれた未加工の麻の茎
京都、1948年

この大麻の苧は、大麻取締法が施行され、新聞紙に包まれたまま糸にならなかったと考えられるものである。連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）により、昭和23年（1948年）に大麻取締法が施行される。以降、大麻栽培は免許制度へ移行し、国内の生産数が激減した。

ミラノでの展示について

展示会場2：Berta Via Cesare Correnti 14

石造りの建屋に、機織りの音が響く。糸が光り、布が揺らめく。いつなのか、どこなのか、分からない。夢の景色を旅するようなインスタレーション。

本展では、数百点におよぶ大麻布や道具のアーカイブを用いて江戸時代の機屋（はたや）を再現。その空間において、職人が伝統的な織機を用い現代の技術で蘇らせた大麻の糸から大麻布を織り、また、アーティスト MAMIUMU によるパフォーマンスを交え、時空を超えてブランドの世界観を体感いただきました。

<majotae>のルーツである江戸時代の柔らかく風合いのある大麻布は、数十におよぶ丁寧な工程を経てつくられており、一つ一つの工程に込められた思想や創意工夫自体をひとつのアートとして提示しました。



Photo : Felix Speller

古くから使われ続けてきた大麻布が本来持つ風合いを、現代の技術を駆使して甦らせたテキスタイル・ブランド < majotae > が、その柔らかさを、世界中の人に体感いただきたいという想いから、肌に最も触れ続けるファブリックのひとつである寝具に着目したスリープコレクションです。



Photo : Guglielmo G C Profeti

コンセプト

人が一生に眠る時間、9490日。
眠りは、人にとって神聖な時間。
なぜ人は眠るのか。なぜ夢を見るのか。
私たちは眠りについてまだ多くを知らない。

< majotae 9490 > は、そんな神秘的な「眠る」という人間の行為に、しなやかに寄り添う存在でありたいと考えます。

ハリがありながら柔らかく、美しく、
使い続けることで馴染んでいく、包み込まれるような肌触り。
眠っている時の身体を快適な状態に保ってくれる、心地よさ。

古から績み織られてきた上質な大麻布で、
眠りを、より深く、豊かなやすらぎへ。

Production	avex Inc.
Product Design	Teruhiro Yanagihara Studio
Website	majotae9490.com (6月よりサイト内にオンラインストアオープン)
Instagram	https://www.instagram.com/majotae_9490

majotae 9490 デザイナー



Photo : Camille Lemonnier

柳原照弘

Teruhiro Yanagihara Studio 主宰。神戸と仏アルルにスタジオ兼ギャラリースペース「VAGUE」を構え、日本、フランス、オランダ、イギリス、台湾を拠点に国やジャンルの境界を越えたプロジェクトを手がける。ブランドのクリエイティブディレクション、アートディレクション、プロダクトデザイン、インテリアデザインなど包括的な提案を行う。

主なプロジェクト：Hermes、1616/ arita japan、OFFECCT、Kvadrat、&Tradition、Skagerak、THREE、Mame Kurogouchi 等。
作品所蔵：フランス国立造形芸術センター(CNAP)、Stedelijk Museum Amsterdam(アムステルダム市立美術館) 等

< majotae 9490 > 展開アイテム

人間は、平均すると、一生に9490日を眠る計算になるといわれることから、< majotae 9490 >と名付けられたコレクションです。

眠りをより豊かにするためにデザインされた本コレクションは、フラットシーツ、デュベカバー、ピローケースを展開。

しなやかでソフトな手触りと、豊かな風合いが特徴で、また、デュベカバー、ピローケースには、着物の重ねにインスパイアされたデザインが施されています。

全10色のタイムレスなカラーで構成しています。

Material 植物繊維・大麻100% (Made in Japan)

Size & Price (価格は6月決定)

Hemp Duvet Cover 150x210cm / 170x210cm / 220x220cm

Hemp Flat Sheets 180x260cm / 260x260cm

Hemp Pillowcase 50x30cm / 60x40cm / 50x75cm

Image



Duvet Cover /Flat Sheet
Bone White、Brick

Duvet Cover /Flat Sheet
Yellow、Navy

Pillow Case : Light Blue

Detail

Color (全10色)



古くから使われ続けてきたサステナブルな素材、大麻布（ヘンプ）が本来持つ風合いを、現代の技術を駆使して甦らせた日本発の大麻布ブランド。

手触りが硬い、ザラザラするといった、一般的に流通している大麻布のイメージを覆す、シルクのような肌触りと、コットンのような柔らかさをあわせ持つ風合いを実現している点が最大の特長です。

19世紀以前の大麻布づくりの手法である手績み・手織りの工程を徹底的に研究し、様々な手作業の工程を、最新の技術やノウハウに置き換えることで、これまで不可能と言われてきた100%の大麻繊維を機械で織ることに成功（国際特許取得）。しっとりとした柔らかく光沢感のある極上のテクスチャーを持つ大麻布を展開しています。

環境負荷が低く、長く使い続けられる大麻布という存在をきっかけに、日常の振る舞いを変え、新しいライフスタイル、カルチャーをつくることを目指し、エイベックスが2011年から展開しています。

大麻布（hemp cloth）とは

大麻布は、古くから人々の生活に寄り添い続けてきた素材です。1万年前に大陸から日本へ伝わり、神事の装束から野良着まで、暮らしの中で幅広く使われていました。産業革命以降、布づくりの機械化が進む中で、大麻繊維は紡績に適さないとされ、ほぼ生産が途絶えてしまいましたが、痩せた土地や乾燥した地域でも成長が早く環境負荷が低いことから、今世界中で再び注目を集めています。

大麻繊維は、その特殊構造によって、夏は涼しく冬は暖かく、速乾性があり、抗菌・防臭などの機能にも優れていると言われてます。何より、使い続けることでしっとりとした馴染んでいく心地よい肌触りには、一度使い始めた人を虜にしてしまう魅力があります。世代を超えて使い続けられる持続可能な上質さを備え、新しい時代のラグジュアリーとも言うべきテキスタイルです。



PHOTO IMAGES



Photo : Guglielmo G C Profeti

Press Contact : HOW INC.

MAIL : pressrelease@how-pr.co.jp TEL : 03-5414-6405

majotae事業に関する問い合わせ : avex alliance & partners Inc. majotae project

MAIL : a-majotae@av.avex.co.jp

読者お問い合わせ先 : majotae9490

Website : majotae9490.com